

# 研修参加報告書

令和 6年 1月 18日

会 派 名 江南クラブ  
会派代表者 稲山 明敏

参加者：土井 紫

研修参加の結果について、次のとおり報告します。

年 月 日	令和5年11月7日（火）
研修時間	18:30～20:30
研修場所	新城市議会 議場
研修内容	愛知県20代の政治の集い 若者議会先進事例 研修会  ■令和5年度 新城市若者議会（第9期） 第10回 若者議会  ・若者議会議長あいさつ ・事業報告 ・答申 ・市民自治会議会議長あいさつ ・市議会議長あいさつ ・市長あいさつ

# 研修参加報告書

## ■目的

こども家庭庁の設置、こども基本法の制定など、国はこども・若者の意見を聞き、こども施策を進める方針を明確にしている。江南市では、こどもの権利に基づいた条例、またこどもの意見を吸い上げる仕組みづくりにおいて全国各自治体に遅れをとっている。愛知県内で先進的な取り組みを続けている新城市若者議会の現場を見ることにより、江南市で取り入れられる点、取り入れる際に注意すべき点など見極めたい。

## ■内容

県内20代の市議会議員5名、同候補者1名が参加

\*\*\*

令和5年11月 7日（火）

18:30～20:30

「令和5年度 第10回新城市若者議会」

この日は第9期若者議会の第10回目であり、5月から各部門に分かれて政策を検討してきた3委員会から、市長・市当局に対して事業報告がなされた。

【まちづくり委員会】一人席の増加など、新型コロナ禍によって交流の機会が減少した「まちなみ情報センター」について、若者たちが交流を深められる場に再調整する施策を提案。具体的には、外から見やすい1階部分を重点に、家具を追加したり BGMを導入したりし、バスや電車の待合にも使えるカフェのような場を作る。ポスターやリーフレット、SNSを活用して広告する。事業費は320万円を見込む。

【若者議会委員会】アンケートで9割が「参加したくない」と答え、定員割れが課題となっている若者議会について、否定的なイメージを払拭し、若者がまちづくりに興味を持ち挑戦できる場としてPRする。「つながる地域と若者の輪」としての機能をアップグレードするべく、場所や時間、内容の周知に工夫することを提案。具体的には、開催場所を市役所から中学校の体育館へ変更し、より身近な場にする。所要時間を2時間から4時間に拡大し、午前はフィールドワーク、昼食をはさんで開催することで内容を深める。印刷製本等を含め、事業費は21万円を見込む。

【農業委員会】農業人口が減り、管理されない農地が増えている現状を解決したい。就農までは考えていないものの、農業に関心がある層に新城市を知ってもらうことを目指す。各スーパーマーケットに対し、キャンプ用特産品セットの販売を提案。給食レシピコンテストを実施、WEB ページで農業体験・就農者を紹介し、「ちょっと農業を始めてみたい層」にアピールする。事業費は給食コンテスト費に15万円を見込む。

事業報告の後、若者議会議長が若者総合政策に関して答申。予算額計395万円を計上した答申書を、市長に手渡した。

#### ■所感

若者の視点で、若者に関連性の高い施策、市の未来を左右する課題に対する施策などについて、具体的な事業や予算まで考慮した提案がされている現場を目の当たりにした。数時間の準備期間しかなかったにも関わらず完成度は高く、メンターとして市職員や若者議会OBを配置している工夫の効果が感じられた。また、市外委員としてワカモノだけでなくヨソモノの視点を取り入れる、委員に対して報酬（1回3,000円、交通費）を支払う、などの制度設計も、提案に奥行きと責任感を持たせることに寄与しており、間もなく10年を迎える歴史ある取組に感心した。

一方で、若者議会委員会が指摘するように、若者議会への関心・認知度や市内若者の積極性は他自治体に比べ高いわけではなく、定員の確保と存続には苦勞していることも窺い知れた。こうした課題に対し、現に委員として活躍する若者たちに解決策を考えさせることは、自治の本来的な価値にかなうものであり、合理的かつもっともな手法の一つであると感じる。同若者議会は公式サイトも運営しているが、これも若者議会が自ら提案したものであるという。「子どもの権利」を保障するべきと言われて久しいが、江南市はじめ大人の理解は「子どもを守ってあげる、お膳立てしてあげる」という段階から脱却しきれていない。1,000万円もの予算が象徴するように、若者議会に責任ある自主性を認めている新城市は、「子ども自らが権利の主体であり、自ら考え、意見を述べ、権利を守る権利・責任がある」ことを理解する高次元に達している。

この日、市長ほか市議会議長、市民自治会議会議長らが出席していたが、共通して委員ら若者たちを「まちをより良くしていくパートナー」であると話していた。江南市でも同じ言葉が用いられることはあるが、実践と覚悟を伴う言葉には力がこもっていた。市長は「意欲ある若者に任せることこそ、選んでもらえるまちにつながる」と話す。主体的でまちに誇りを持つ市民を育てるためには、具体的な態度や事業を通して若者・子どもを信じるメッセージを発信することが第一歩となることを改めて感じた。